

為替週間展望 = ドル円は高値圏で一進一退の動きか

[5月25日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月18日～5月22日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	158.62	159.34(21)	158.54(18)	159.08	+0.34
ユーロ・ドル	1.1622	1.1662(19)	1.1576(21)	1.1611	-0.0014

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	63,339.07	+1929.78	日本10年債利回り	2.764	+0.047
ダウ平均株価	50,285.66	+759.49	米10年債利回り	4.570	-0.024

< 来週の主要経済統計等 >

- 26日 日本3月景気動向指数改定値
 - 米3月住宅価格指数
 - 米3月S & Pケースラー住宅価格指数
 - 米5月消費者信頼感指数
- 27日 植田日銀総裁あいさつ
 - 豪4月消費者物価指数
 - NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
- 28日 カナダ第1四半期経常収支
 - 米新規失業保険申請件数、米4月個人所得・個人支出
 - 米4月耐久財受注速報値、米第1四半期GDP改定値
 - 米4月個人消費支出(PCE)価格指数
 - 米4月新築住宅販売件数
- 29日 東京都区部5月消費者物価指数
 - 日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率
 - 日本4月小売業販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値
 - スイス5月KOF先行指数
 - 独5月雇用統計、独5月消費者物価指数速報値
 - カナダ第1四半期GDP、カナダ3月GDP
 - 米5月シカゴ購買部協会景気指数

【前回のレビュー】4月の米消費者物価指数や生産者物価指数の上振れを受け、インフレ警戒感が改めて高まっている。原油価格が1バレル=100ドル近辺で高止まりする中、米長期金利は上昇傾向にあり、ドルも堅調に推移している。足元では介入警戒感と米ドル高の勢いが交錯する状況となっている。先行きのドル円は高値圏でもみ合うものの、介入への警戒感から神経質な展開が続くとした。

【ドル円は高値圏でもみ合いが継続】

18日以降のドル円は、158円台半ばから159円台前半での狭いレンジで一進一退の動きが続いた。12日発表の米消費者物価指数(CPI)や13日発表の米生産者物価指数(PPI)がともに市場予想を上回ったことで、インフレ警戒感が強まった。原油価格の高止まりも嫌気され、米長期金利の上昇がドルの下値を支えた。

一方で、159円を超えてくると、政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感が上値を抑えている。こうした中、ドル円は上下に大きく動きづらく、高値圏でのレンジ相場となった。

20日、トランプ米大統領はイランとの戦闘終結に向けた交渉が「最終段階にある」

と述べた。これを受けて地政学リスクの和らぎからドル売りが優勢となり、ドル円は一時158.60円台まで下落した。ただ、売りが一服すると、その後はドル高に振れる展開となった。

同日に公表された米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（4月28～29日開催分）は、市場の想定以上にタカ派的な内容だった。多くの委員が「インフレ率が2%を上回って定着する場合、さらなる引き締めが適切となる可能性が高い」との見解を示していたことが判明するなど、総じてインフレへの警戒感が示される結果となった。

【米国とイランの戦闘終結へ向けた動きに注目】

5月25日の週に予定される日米の経済指標やイベントは、26日に日本3月景気動向指数改定値、米3月住宅価格指数、米3月S&Pケースシラー住宅価格指数、米5月消費者信頼感指数、28日に米新規失業保険申請件数、米4月個人所得・個人支出、米4月耐久財受注速報値、米第1四半期GDP改定値、米4月個人消費支出（PCE）価格指数、米4月新築住宅販売件数、29日に日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率、日本4月小売業販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値、米5月シカゴ購買部協会景気指数などがある。

米国とイランの戦闘終結へ向けた動きが注目される。トランプ米大統領が20日にイランとの交渉は「最終段階」と述べたことで、NY原油先物が5.89ドル安と急落した。米長期金利が低下するとともに、米国株は主要3指数がそろって上昇した。

もっとも、実際の戦闘終結に向けた動きには懐疑的な見方も根強い。トランプ米大統領の発言はこれまで二転三転しており、ポジティブな発言が出て、その後に覆されるといったことが何度も繰り返されてきたためだ。市場では同氏の発言に対して、常に懐疑的な見方がつきまとう。

なお、6月の日銀金融政策決定会合での利上げ確率は80%程度となっており、その機運は徐々に高まりつつある。6月を含めて年内2回程度の利上げが見込まれており、日銀が利上げ姿勢を明確に打ち出していけば、ドル円の上値を抑える要因となりそうだ。

原油高を受けての米国でのインフレ圧力の高まりがドルの上昇要因となる一方、160円接近では政府・日銀による介入警戒感が上値を抑える要因となろう。こうした中、ドル円は高値圏で一進一退の動きが続くとみられる。目先の予想レンジは154.00～160.00円。

【ユーロドルは軟調な推移か】

18日の週のユーロドルは全体として上値の重い展開となった。米連邦準備制度理事会（FRB）がFOMC議事要旨でみせたタカ派的な姿勢を背景に、ドルの堅調さがユーロドルの重石となっている。

6月の欧州中央銀行（ECB）理事会では80%前後の確率で利上げに動くとの見方が広がっているものの、米ドル高の勢いが強くユーロドルは下値を模索する展開が続いた。ユーロドルは21日移動平均線を下回って推移しながら、5日移動平均線に上値を抑えられている。こうした中、目先は軟調な推移となりそうだ。目先の予想レンジは1.1400～1.1700ドルに設定する。

ポンドドルはスターマー首相への退陣要求など政治不信の高まりから、15日に1.3310ドル近辺まで下落した。その後18日には、それまで続いた下げへの反動から1.3450ドル付近まで買い戻されたものの、戻りが一服すると足元はもみ合いで推移している。ポンドドルはドルの堅調さなどを背景に、今後も上値の重い展開が見込まれる。目先の予想レンジは1.3200～1.3500ドル。

今後の日米以外の経済指標としては、27日に豪4月消費者物価指数、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、29日にスイス5月KOF先行指数、独5月雇用統計、独5月消費者物価指数速報値、カナダ第1四半期GDP、カナダ3月GDPなどが予定されている。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。